

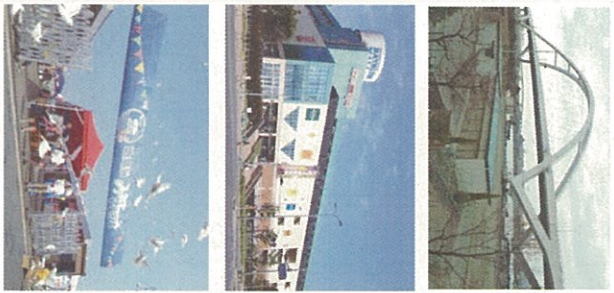
岸和田旧港周辺魅力カづくり構想 (案)

資料4

■ **これまで** 昭和60年12月の港湾計画、埋め立てと遊引して岸和田漁港等既存施設が阪南1区へ移転、平成5年2月の市街化区域編入・再開発地区計画の都市計画手続きを経て、平成9年3月の岸和田カンカン(商業施設東館・核テナント「イズミヤ」)が開業。新たな都市拠点の誕生。

- 平成10年10月 スポーツム岸和田開業 ※平成22年8月閉業
- 平成11年9月 岸和田カンカンベイサイドモール(商業施設西館)開業
- 平成11年11月 共同住宅南1番館・南2番館入居開始
- 平成14年4月 国際・文化施設「岸和田市立浪切ホール」オープン
- 平成15年9月 ハウスデザイン施設「リヴァー・ジュラ」開業

- **いま** 平成23年3月 岸和田市まちづくりビジョン(第4次岸和田市総合計画)策定
都市計画マスタープラン 策定
- 平成27年3月 岸和田市産業振興新戦略プラン 改定
- 平成27年8月 地蔵浜みなとフェスティバルなど新たな活性化イベントの試行実施
- 平成27年12月 岸和田カンカンの核テナント「イズミヤ」の撤退



■ **岸和田旧港再開発地区** 岸和田旧港地区では、商業施設や住宅、文化施設、緑地など総合的なまちづくりを進め、新たなまち「アマガエル」岸和田」が誕生



■ **地蔵浜地区** 地蔵浜地区では、地元産業を支える阪南港の内貿埠頭として、主に砂利、砂、石材業の企業が立地



■ **構 想** 岸和田旧港周辺魅力カづくり構想

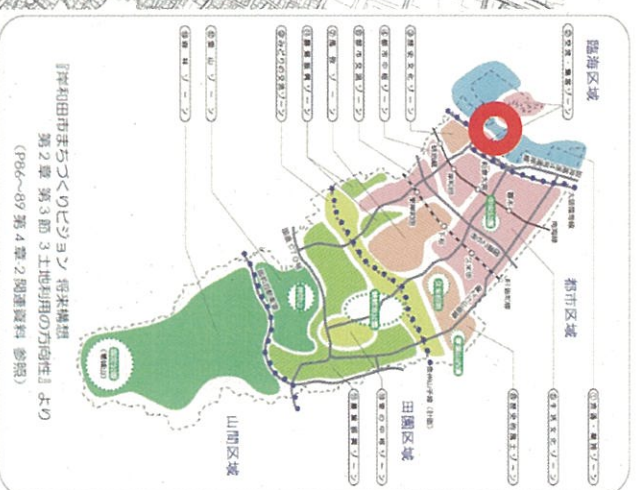
■ **策定主体** 岸和田市(産業振興部、まちづくり推進部)
策定組織: 岸和田ウォーターフロント連絡協議会

■ **オーライズ** 岸和田市産業活性化推進委員会

■ **関係団体** 港緑町、民間土地所有者、住商アーバン開発株式会社、岸和田商工会議所
岸和田市漁業協同組合、春木漁業協同組合、大阪府鯉巾着網漁業協同組合、地蔵浜協議会

■ **内 容** ○岸和田旧港地区周辺の背景
○岸和田旧港地区周辺魅力カづくり構想の位置付け
○岸和田旧港地区周辺魅力カづくり構想の方向性
○岸和田旧港地区周辺整備イメージ図(ゾーニング)
○重点プロジェクト
○構想の推進にあたって

■ **対象区域** 岸和田旧港を中心とした内湾を含む約42ha



■ **策定時期** 平成28年 月予定

策定後は構想の実現に向け、国や府など関係機関に対し、
港湾計画の見直しに向けた協議を進めていく

岸和田旧港周辺魅力づくり構想 (案) 概要版

○岸和田旧港地区周辺魅力づくり構想の方向性

【課題と方針】

①豊富な資源の活用
観光需要の高まりや府内随一の漁獲高等の豊富な資源の有効活用が必要です。そのためには中心市街地や漁業拠点などの立地条件、良好な交通アクセスなど、岸和田旧港地区周辺の「地の利」、「道の利」を活かすことが重要です。

③未活用地の活用

阪南1区北東部や岸和田旧港地区（ヌボーツドム跡地）の一部で土地利用方針が定まっていない未活用地の有効活用が必要です。岸和田旧港地区周辺の活性化の観点から土地使用方針を定め、活用に向けて取り組むことが重要です。

⑤岸和田旧港地区再開発事業の進捗

平成初期からの岸和田旧港地区再開発事業が停滞しており、文化・宿泊機能の立地など当初の目標の達成および事業の早急な進捗が必要です。そこで、岸和田旧港地区周辺魅力づくり構想により、再び事業を進捗させることが重要です。

②新たな地域活性化の取り組みとの連携
阪南1区北東部での「地域浜みなとバルジエ」の試行実施など新たな地域活性化イベントが実施されている中、隣接する岸和田旧港地区との連携が必要です。それにより、岸和田旧港地区周辺が一体となって活性化を図ることが重要です。

④周辺の類似施設との差別化

岸和田市近辺に類似の商業施設のオーブナカ続々と進む中、岸和田カシオの核テナントであるイズミヤの撤退などをきっかけとし、新たな活性化対策が必要です。そこで、岸和田市旧港地区の立地条件、親水性など地域特性を十分に活かし、他の施設との差別化を図ることが重要です。

⑥岸和田市全域との連携や波及効果

人口減少や商業規模の縮小は市域全体の課題であり、将来に向けた対策が必要です。そこで、岸和田丘陵地区など市内の様々な資源と連携し、岸和田旧港地区周辺での取り組みが市域全体の活力の増進への波及効果となることが重要です。

【魅力づくり構想の目指すべき姿】

○阪南1区北東部・岸和田旧港地区、それぞれ資源や魅力を発掘、整理し、お互いに連携することにより1つの地域として価値を高めるとともに、にぎわいを創出し、一帯の活性化を図る。

○岸和田旧港地区周辺の立地条件や交通アクセス等の優位性を活用し、岸和田市内だけでなく泉州地域や関西国際空港などとの交流、観光の視点を強化し、にぎわいの創出に寄与する。

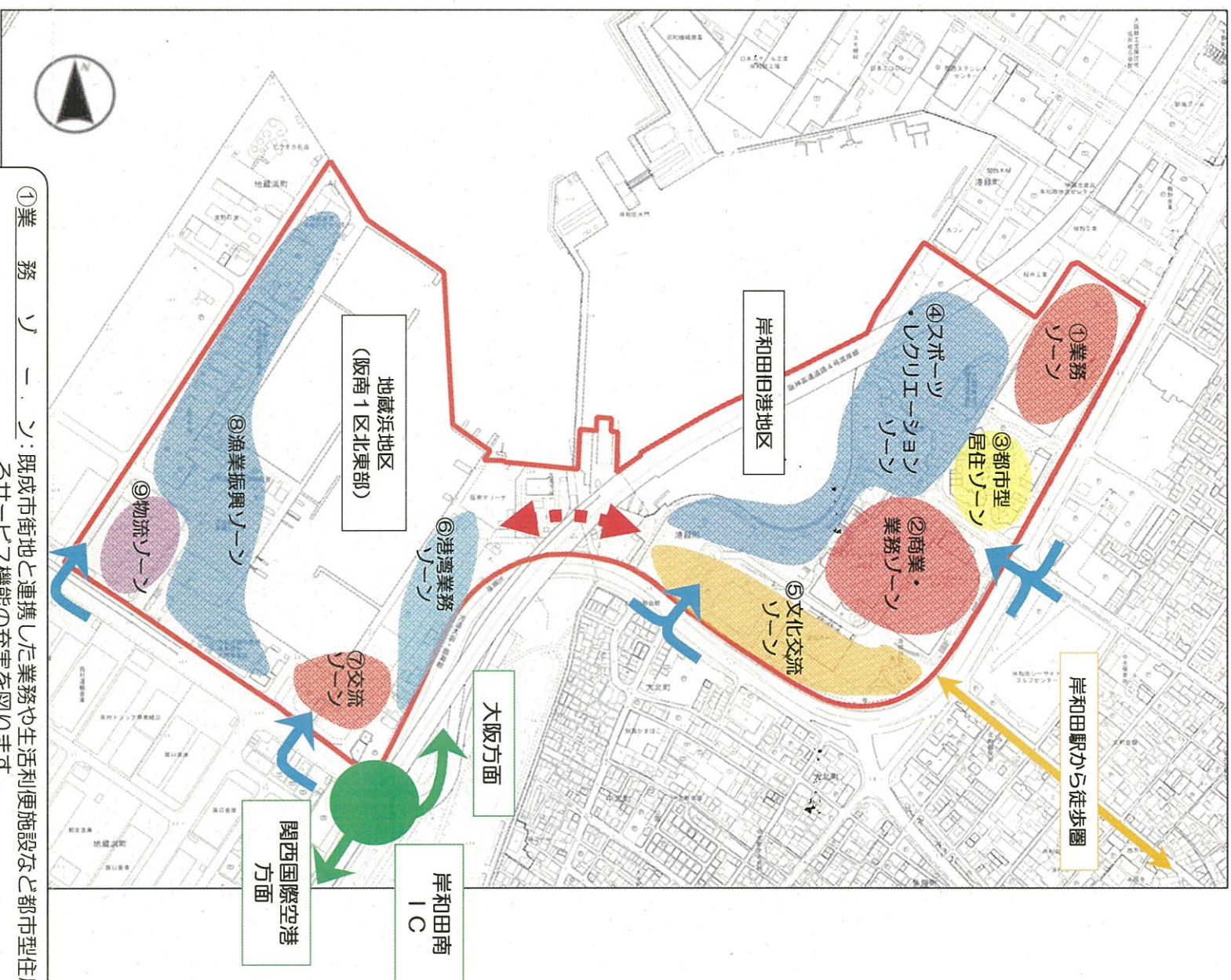
○岸和田旧港地区再開発計画が達成されていない中、岸和田旧港地区に再びスポットを当て、もう一度、再開発プランの実行を図る。

○臨海部から市域全体に活性化の波及効果を図る。

【魅力づくり構想の基本コンセプト】

「豊富な資源をいかした“にぎわいが持続・発展する魅力ある交流拠点”を実現！」

○整備イメージ図（イメージ）



- ①業務ゾーン：既成市街地と連携した業務や生活利便施設など都市型住居に付帯するサービス機能の充実を図ります
- ②商業・業務ゾーン：既成市街地と連携した商業核を形成するとともに、臨海部の活性化及び高度化を図ります
- ③都市型居住ゾーン：水と緑豊かな環境に包まれた魅力的な住環境を維持・保全します
- ④スポーツ・レクリエーションゾーン：にぎわいのある親水空間の創造と周辺の水と緑豊かな環境と調和したスポーツ・レクリエーション施設など港湾関連の福利厚生機能の誘導を図ります
- ⑤文化交流ゾーン：優れた交通ネットワークを活かし、文化宿泊機能を導入し浪切ホールを中心とした国際文化交流拠点の形成を図ります
- ⑥港湾業務ゾーン：漁業振興ゾーンなど、隣接するゾーンと連携する機能の導入により本地区の活性化及び高度化を図ります
- ⑦交流ゾーン：周辺の施設と連携し、優れた交通ネットワークを活かした広域的な交流拠点の形成を図ります
- ⑧漁業振興ゾーン：倉庫や販売所など漁業関連施設の充実により漁業の振興を図ります
- ⑨物流ゾーン：優れた交通ネットワークを活かした物流拠点の形成を図ります